

## 【22\_268技術系メルマガ】マーケットを動かしているのは誰か？

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

「KUROさんはトレードする時に、ファンダメンタル要素は気にしないのですか？」という質問もよく頂きます。

結論から言うと、『全く考慮しないわけではない』です。

僕の事をよく知ってくれている人にはもう既知の話になりますが、以前Twitterでも軽く触れたように、僕は常に主要国の経済指標や政策金利

そして、各国の祝日(によるマーケット休場日)は必ず確認するようにしています。

▼当時のツイート▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1572116608612708359?s=20&t=Ng3BNkiHIXnUdyJpcvcusA>

まあ、これ位であれば人によっては「そんなの当たり前だろ。なにドヤ顔で言ってるんだコイツは」と思われるかもしれません(笑)

ですが、僕の場合世間一般で認識されているような「ファンダメンタル分析」を行っているというわけではなく

あくまで『相場の不確実性』の中でも“より厄介な要素”を排除する為に、これらの情報収集を行っているのです。

ということなのかは、この先で説明をしますね。

今回の内容は特に、最近FXの勉強を始めた人には必見の内容だと思います。

## ■ 為替相場を動かすプレイヤー(思惑)はたくさんある

まず、前提として知っておくべきなのは

為替市場を動かしている人たちは本当に多く、それも全く異なる思惑が寄り集まっていると言う事です。

簡単に挙げても、個人投資家だけでなく

政府系金融機関を含む機関投資家もいるし、実需筋で商社(現地通貨を円と交換して、貿易取引に用いる)なども為替取引に関わっていますし

その取引量は個人投資家の比ではありません。

ですから、注目度の高い経済指標や政策金利では、時に大きな値動きやスプレッドの変動が発生する可能性があるのです

敢えてそこでトレードをするのか、前もってそこでのトレードを避けるのかは予め決めておく事が必要になります。

また、『地域の祝日』を意識しておくことも重要です。

機関投資家も実需筋も、活動地域が『祝日』ともなればマーケットが休場となり

一斉に大口のプレイヤーは不在になります。

つまり、普段と比べるとマーケットの流動性は必然的に下がるわけです。

そんな日でも、為替市場自体が完全にクローズとなるわけではないため、個人投資家などは取引が可能ですが

相場に参戦しているプレイヤーの顔ぶれが変わる日は、いつもと同じような値動きをするかどうか分かりません。

要するに、いつも以上に相場の不確実性が増すということでもあります。

僕の考えるトレードの基本は、『常に同じサイコロを振ることで、トータルの確率論で勝つ』です。

つまり、「いつもと違う」相場環境だと分かっているのであれば、敢えてそこでは手を出さない。

これが、指標の時刻周辺や、マーケットが休みとなる日にトレードを控える理由です。

もちろん、この考え方が絶対正しい と言いたいのではなく

このように自分の中で考えに一貫性を持たせて相場と向き合う事が必要だという事です。

皆さんも、自分なりに無理なく運用できる自分なりのルールを明確に構築し、それを守る習慣をつけて行くようにして貰えればと思います。